

北京で初の感染確認 拡大防止に全力

4月13日 21時54分



中国でヒトへの感染が相次いでいるH7N9型の鳥インフルエンザウイルスは、13日、首都の北京でも初めて感染が確認されたほか、上海では同じ家族内で2人目の感染が確認されました。

北京市によりますと、感染が確認されたのは、市内に住む7歳の女の子です。女の子は11日から高熱やせきなどの症状が出て、詳しい検査の結果、13日に感染が確認されました。

現在は入院して治療を受けており、容体は安定しているということです。両親は生きたニワトリなどの販売に従事しているということですが、感染は確認されていません。

H7N9型の鳥インフルエンザウイルスのヒトへの感染確認は、これまで中国東部の上海とその周辺地域に限られていました。

北京で確認されたのは初めてで、市当局は生きた鳥の取り引きを停止するほか、野鳥などがウイルスに感染していないかどうかの監視を強めるなど、感染の拡大防止に力を入れることにしています。

一方、上海市は、H7N9型の鳥インフルエンザウイルスに感染して今月3日に死亡した女性の56歳の夫も感染が確認されたと発表しました。

同じ家族内で2人目の感染が確認されたのは初めてですが、市は「妻から感染したと判断する十分な材料があるわけではない」としています。

このほか、国営の新華社通信によりますと、13日は、江蘇省で77歳の女性と72歳の男性、それに浙江省で65歳の男性と38歳の男性の合わせて4人が、H7N9型の鳥インフルエンザウイルスに感染していることが確認され、中国での感染者は合わせて49人となり、このうち11人が死亡しています。